

INSIDE-OUT

木二中 学校だより No.36 令和6年2月1日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



生きる力を身につけるということ

「負ける」よりは「勝つ」方がいい。「苦しい」より「苦しくない」方がいい。「転ぶ」より「転ばない」方がいい。

世の中でいわゆる「成功者」と讃えられている人たちすべてが、何の苦勞もなくその地位を築いたのかというと、決してそうではありません。「成功者」だけではない。ごく普通に日々の生活を送っている人たちだって、実はみんな心の中では歯をくいしばって生きている。過去を振り返れば、一度や二度ならず、何度もつまづいた経験があるはずです。それでも今こうして生きている。上を向いて生きていこうとしている。自分の人生を、そしてこの世の中を「生きる」って、実はとても大変なことでもあるのです。

今、中学生である君たちは、保護者、学校の先生方、地域の方々などたくさんの大人たちに守られて生きています。当たり前のことだけど、君たちにはまだ生きる力がないからです。今、世の中を力強く生きていくための訓練をしているからです。では何の不自由もなく生活できているかというと、決してそうではありません。たくさんの大人たちに守られてはいるけど、みんなにだって多かれ少なかれ、辛いことや苦しいことがあったはず。仲間の心ない言動に傷ついたこともあるでしょう。試合に負けて己の力のなさに凹まれたこともあったでしょう。下を向くこともあった。進むべき道に迷ったことも。でも君たちだって今こうして生きている。生きる力を身につけようとしている。

私が中学生や高校生だった頃に比べれば、今君たちは、とても難しい時代に生きていると思います。日々のニュースを見れば、ネット犯罪やいじめ問題など、昔ではあり得なかった事件が数多く報道され、心が痛む思いにさせられます。しかし、「難しい時代」が原因だとしても、木二中学生だけに言えることではありませんが、今の中高生たちは、昔に比べたら「生きる力」が弱いのではないかと思うことがあります。打たれ弱い面がある。自分の思い通りにならなかったり、自身に不利益な出来事が起こるとすぐに目に見える形となって現れる。別の他者を攻撃する。他者を攻撃し、傷をつけることで自らの傷を癒やそうとする。はたしてそれは正しいことなのだろうか。それだけではなく、物事に対する考え方や思いが軽くはないだろうか。

「他人のために」行動できる人が圧倒的に少ない。自分がこれ以上深入りすると後になって何を言われるかわからないから何をやっても「そこそこ」で終えてしまう。「まだできる、もっとできる」とやろうとしない。可能性を追求しない。そう思うのは私だけではないはず…といたいところですが…。世の中の風潮や時代のせいなのかもしれません。

「自分だからこそのこと」

「生きる力」って何だろう？それは、その人が内面に持つ心の強さではないかと私は思います。周囲に左右されない。人と比べて、恵まれない境遇を悲観したりしない。凹まされてもまた立ち上がる。自分は自分であって他の誰でもない。自分の人生を堂々と歩んでいくのは、他の誰でもなく己（おのれ）。今はたくさんの大人に守られてはいるけど、いずれは自らの足で歩んでいかなければならない。敢えて目の前の水たまりに身体を濡らさなければならないことだって、長い人生にはたくさんあるのです。

そんな「生きる力」を混沌とした世の中で身につけていくためには、社会の中で人間の多様性をお互いに認め合うことが大切ではないだろうか。それはなぜか。人は周囲の人間の多様性をお互いに認め合うことで、それぞれが自分にしかできない「役割」を見つけようとするからです。その「役割」が、自己肯定感（自分を大切に思う気持ち）につながり、生きるバイタリティーになる。当たり前だけど、私たち一人一人は、生きてきた環境や育てられた親、学んだ知識、考えてきたこと、いわゆる価値観が異なっているのだから、自分にしかできないことや他者よりも自分の方が少しでも優れているところが必ずあるはずで、それらを他者のために尽くすことで、自分自身の「役割」を感じ、その役割を他者に認めてもらうことで自分の存在感を再認識できるようになる。「自分だからこそのこと」が自己の「生きる力」となるのだと思います。

「自分は自分であって他の誰でもない。自分にしかできない、自分だからこそできることが必ずある。自分を必要としてくれる場所がある。人がいる。」

何度も言いますが、近い将来、自らが選択し、決断した道を自らの力で歩いていかなければならない 때가必ずやってきます。もうしばらくは、お家の人に助けてもらわなければならないけれど、間もなくその準備をしなければならない時期がやってくるということです。「自分だからこそ、この道しかない!」、そんな道をみんなには見つけてほしいと思っています。

令和5年度もあと2ヶ月。INSIDE OUT No.36はなんだか難しい内容になってしまいましたが、「少しでも思いが届けば…」と綴りました。